

# eBASEカンファレンス2009

食品卸としての  
食の安全・安心情報管理への  
取り組み

株式会社昭和

# 会社概要

## 会社概要

- 開 業 昭和25年6月  
資本金9億6,000万円  
(昭和グループ11億4,000万円)
- 事業員数 560人(昭和グループ)
- 営業内容 水産物・同加工品、一般食料品  
・同加工品、米穀の販売。  
冷凍食品、業務用食材、酒類、  
その他食料品を扱う総合食品商社。  
その他冷蔵・冷凍倉庫および専門店。
- 取引先 量販店ならびに百貨店、卸店、業務用  
関係、他専門店

## 昭和グループ

- ・株式会社昭和
- ・昭和水産株式会社
- ・株式会社三洋
- ・株式会社あおい
- ・株式会社太助
- ・ジョイフーズ株式会社
- ・フィッシュファイト株式会社
- ・天竜水産株式会社
- ・昭和冷蔵株式会社

# 会社沿革

昭和38年	10月	本社社屋新築、資本金3,000万円に増資	平成 6年	6月	静岡県富士市に静岡富士営業所を開設
昭和40年	6月	愛知県名古屋市南区に鳴尾営業所、配送センターおよび加工工場建設	平成 7年	12月	静岡県磐田市に静岡営業所移転
昭和43年	7月	資本金を4,000万円に増資	平成 8年	9月	三重県一志郡一志町に三重営業所を移転し、併せてギフト配送センターを開設
	9月	静岡県浜松市に静岡営業所を開設	平成 10年	8月	埼玉県羽生市に関東事業所を開設
昭和47年	12月	酒類販売の免許を獲得、販売に進出	平成 11年	2月	愛知県稲沢市に稲沢配送センター開設 本社機能移転
昭和48年	1月	新本社ビル完成、同ビルに本社を移転	平成 13年	9月	昭和冷蔵株式会社本社にて ISO14001取得
	8月	愛知県名古屋市南区に昭和第2ビル完成 資本金を1億円に増資		10月	神奈川県厚木市に厚木営業所、厚木配送センター厚木ギフトセンターを開設
	10月	本社1,000t冷凍冷蔵庫完備、続いて愛知県春日井市に昭和冷蔵(株)設立	平成 14年	7月	稲沢第2センター開設
昭和51年	1月	旧本社跡に昭和第3ビル完成	平成 15年	9月	昭和冷蔵株式会社 ISO9001取得
	4月	春日井市配送センターおよび加工工場建設、本社1階にて水産部配送センター営業開始		12月	岡崎配送センター開設
昭和54年	11月	愛知県豊橋市に営業所を開設	平成 16年	10月	株式会社昭和 ISO9001取得
昭和55年	4月	三重県四日市市に三重営業所および配送センター 冷凍冷蔵庫、加工工場を建設	平成 17年	9月	犬山配送センターを開設
昭和60年	9月	愛知県小牧市に小牧営業所および総合配送センター 冷凍冷蔵庫を建設	平成 18年	6月	北関東営業所および北関東配送センターを開設
昭和63年	10月	本社冷凍冷蔵庫改築	平成 18年	11月	Pマーク取得
平成 2年	8月	愛知県宝飯郡小坂井町に豊橋営業所を移転、 小坂井配送センター、冷凍冷蔵庫を建設	平成 20年	2月	静岡営業所および牧之原配送センター 開設
平成 3年	6月	資本金を9億6,000万円に増資			

# 経営理念

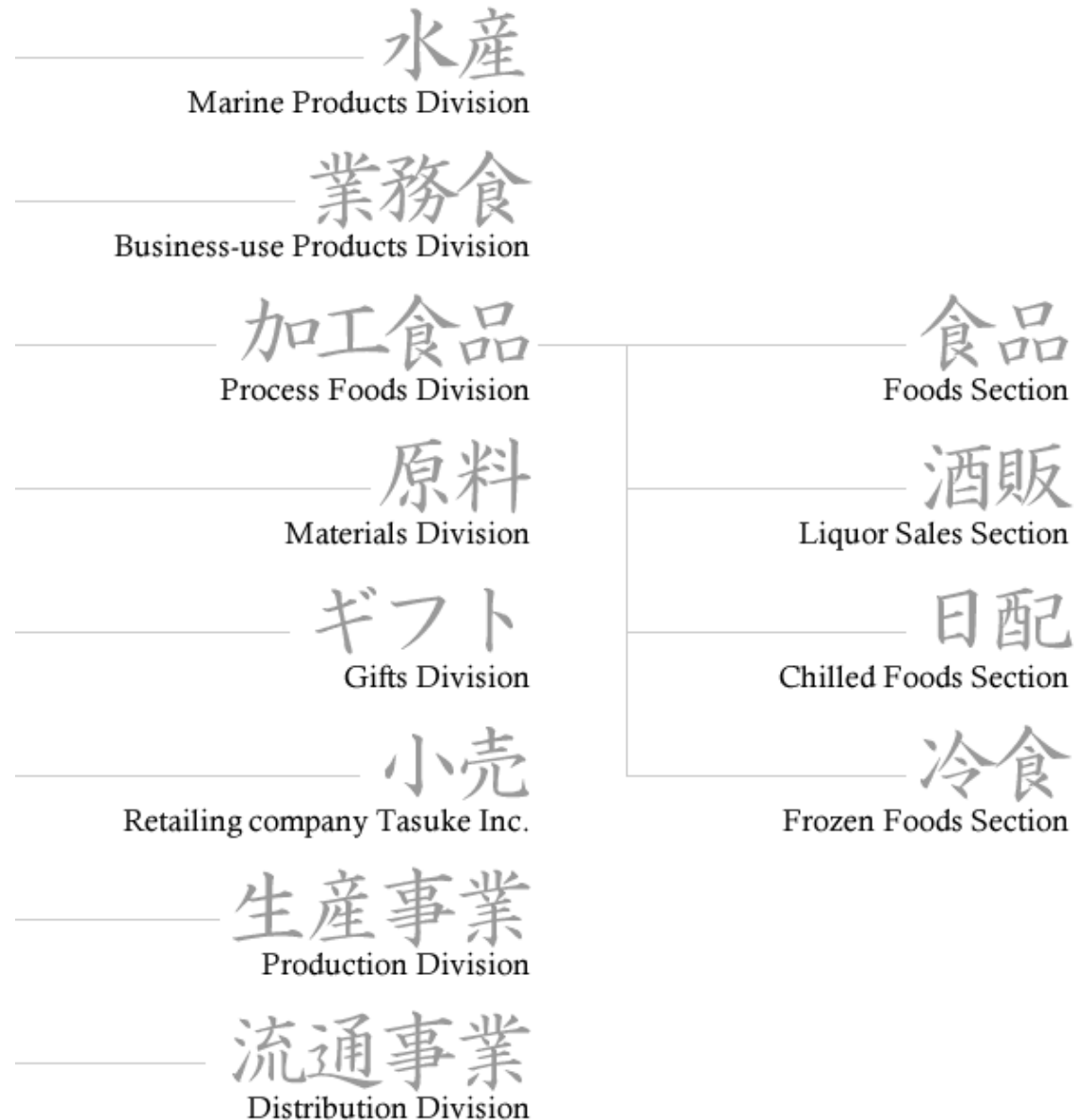
人と時代を見つめ、  
食品流通業界の確信に向けて  
行動し続けます。

消費者のニーズがめまぐるしく変化していくなかで、食文化もますます多様化、細分化されています。水産物仲卸業から始まった当社も昭和25年の創業以来、卸売、加工、小売り、物流、保管、拠点など、一貫した経営体制をベースに、時代の流れにそったさまざまな食品を手掛け、躍進してまいりました。

どの時代も消費者の立場になって考え、行動する誠実な姿勢を基本としています。

今後も食文化を豊かにするため、食品流通業界の革新に向けて、努力を続けてまいります。

# 業務概要



# ネットワーク

## ネットワーク

食文化のコミュニケーションを創造し、中部圏をくまなく網羅する、  
 情報と物流の和のネットワーク

昭和の拠点は、愛知、三重、静岡、神奈川、群馬に広く分散し、各地にネットワークを拡げています。「お客様の近くに、拠点を」というのが昭和のポリシー。すべてのお客様から1時間エリア内に拠点を置くことを基本とし、中部圏各地に広がるお客様の要望にいち早く対応しています。またそれぞれの拠点は営業所としての役割を果たすだけでなく、商品を迅速にお届けできる配送センター、フレキシブルにバック化する加工工場、鮮度を保つ冷凍冷蔵庫としての機能を併せ持つなど、多様なお客様のニーズに、さらにリアルタイムにお応えできる体制づくりが進められています。



本部



北関東営業所



厚木営業所



犬山配送センター



小牧配送センター



名古屋営業所



三重営業所



岡崎配送センター

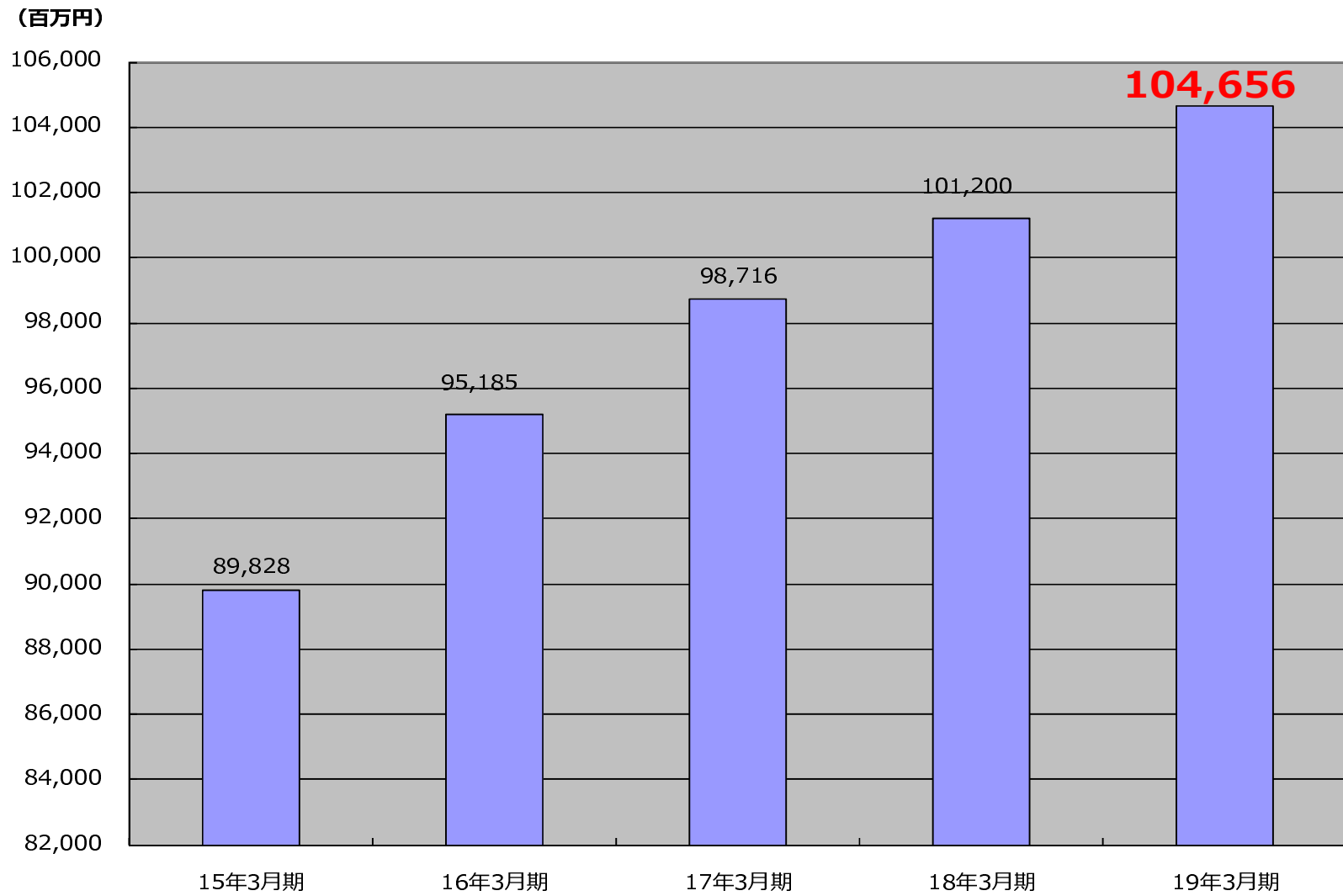


小坂井配送センター



静岡営業所

# 売上高



# ISO 22000への取り組み

## 食品安全方針

我々は、人と時代を見つめ、食品流通業界の革新に向けて行動し続けます。

1. 我々は当社フードチェーンに関わる法規制を遵守し、安全な商品を提供します。
2. 我々は当社フードチェーン内の食品安全ハザードを分析し業務の安全性を監視します。
3. 我々は感謝と学ぶ気持ちを忘れず、地球環境の変化や消費動向の変化を先取りし、食の豊かさを企画するアシスタントになります。
4. 我々はお客様の要求に応えるため、食品安全マネジメントシステムを構築し継続的に見直し改善し、信用・信頼を得る企業になります。



# 導入背景と目的

## 導入背景

1. 食品偽装や、残留農薬、薬物混入等の問題が多数発生。
2. BSE、遺伝子組換え作物、産地偽装問題等、食の安全・安心に対する意識の高まりにより品質保証が求められる。
3. 得意先様からの問い合わせ（原料産地、原材料、生産工場、等々）に対し迅速な対応が求められる。

## 目的

- \* 上記背景をもとに、迅速な対応と安全性の確保又、業務の効率化を考え、商品台帳管理の一元化を図る為、eBASEシステムの導入を実施。

# 導入前の課題と今後

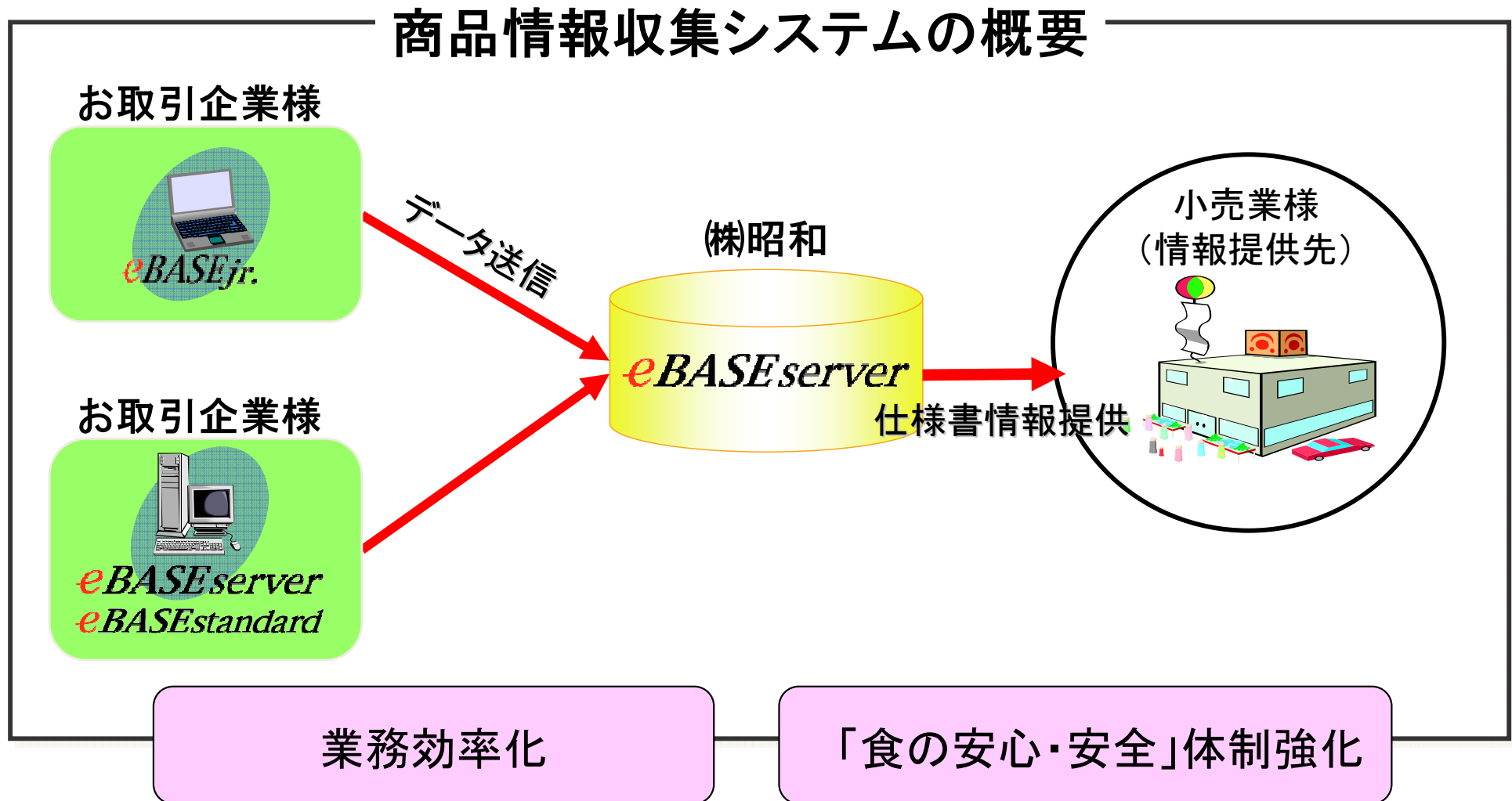
1. 商品情報の一元化ができず、商品情報の検索に時間がかかる。
2. 得意先様からの問い合わせに迅速な対応がとれる仕組みが必要。
3. 原材料～生産工程に至る全ての商品情報を集約し、品質管理、品質保証体制の構築が必要とされる。
4. 得意先様に安心して買っていただける環境整備。

# システム選定理由

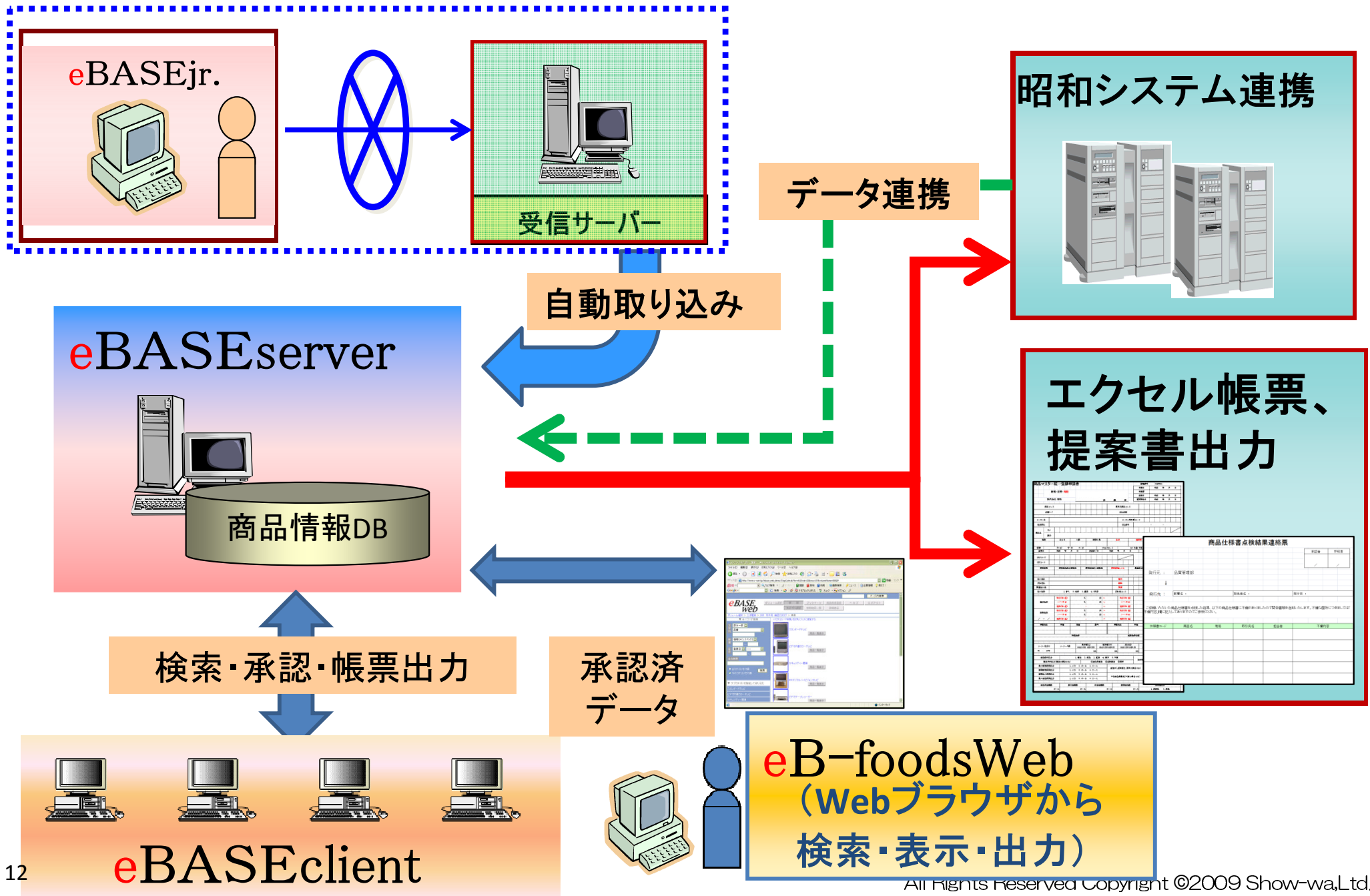
1. 取引先様の入力をベースとした商品情報の構築を行う。  
⇒ **データ構築の効率化が可能。**
2. 取引先様にメリットがある仕組みでデータ収集を行う。  
⇒ **高精度、タイムリーな情報収集が可能。**
3. **商品に関わる情報を全て一元管理ができる。**
4. 構築した情報から得意先様提案用の資料を作成。  
⇒ **商品仕様書、提案書作成の効率化が可能。**
5. **構築した情報を社内共有、またホストへの連携が可能。**

# 商品情報収集システムの全体概要図

商品情報収集システムを用いて、商品情報交換における相互間の業務効率化とお取引企業様との「食の安心・安全」における深い信頼関係を築きたいと考えております。



# 新商品データベースのシステム概要



# データ収集の仕組み①

お取引企業様にデータ登録・送信用のソフトウェア eBASEjr. を無償配布して、商品仕様書、規格書情報をインターネット経由で収集しています。

データ収集は下記9部門で実施しています。

	部 門
①	水産
②	業務用
③	業務用(外食・惣菜)
④	ドライ食品
⑤	冷食
⑥	日配
⑦	酒
⑧	ギフト
⑨	原料

基本的な商品情報はeBASE社の  
 パッケージソフト「FOODSeBASE」  
 を利用。全部門共通で利用している。  
 青文字:eB-foods /P(製品版)  
 赤文字:eB-foods/P(原材料版)

ただし、各部門ごとに  
 パッケージソフト「FOODSeBASE」の  
 管理項目以外もデータ収集したいとの  
 ニーズがあった。

そこで

# データ収集の仕組み②

各部門の必要項目をまとめ、不足項目は昭和専用画面を開発。eBASEjr.の配布時に取引先に配布。

取引区分  
 業務食部  ギフト部  原料部  酒販課  その他

業務食部  
 メーカー出荷基準(納入時残賞味期限) 2 日  
 受注可能最小ロット数 1 C/S

酒販課  
 酒類区分  
 発泡性区分 アルコール度 度  
 精米歩合 % 日本酒度  
 酸度 蒸留  
 使用麹  
 味わい

社内管理情報  
 社内備考

原料部  
 原料固体サイズ 長さ mm 使用農薬の把握  
 幅 mm 使用農薬の残留検査  
 厚み mm 肥培管理の有無

風味  
 色沢  
 香味  
 外観  
 異物  
 夾雑物

備考

ガイド  
 取引区分を選択することで、入力対象項目が自動的に変更されます。  
 取引区分を変更すると、入力対象項目が変動するため、これまで入力された値はクリアされます。  
 取引区分を変更する際はご注意ください。

取引区分を選択することで区分ごとに入力項目が自動的に選択される。

酒販課では、酒類区分毎に必要な項目を自動選択

# データ収集の仕組み③

各部門の必要項目をまとめ、不足項目は昭和専用画面を開発。eBASEjr.の配布時に取引先に配布。

ギフト部門では専用画面内で専用入力タブを設けている。



# データ収集の仕組み④

お取引企業様から昭和へのデータ送信時には、「確認・承認」画面の**提出先の値**を選択して頂き、選択された提出先をもとに送信チェックをかけている。



提出先	eB-foods	専用画面区分
1. 水産	製品版	その他
2. 業務用	原材料版	業務食部
3. 業務用(外食・惣菜)	原材料版	業務食部
4. ドライ食品	製品版	その他
5. 冷食	製品版	その他
6. 日配	製品版	その他
7. 酒	製品版	酒販課
8. ギフト	製品版	ギフト部
9. 原料	原材料版	原料部

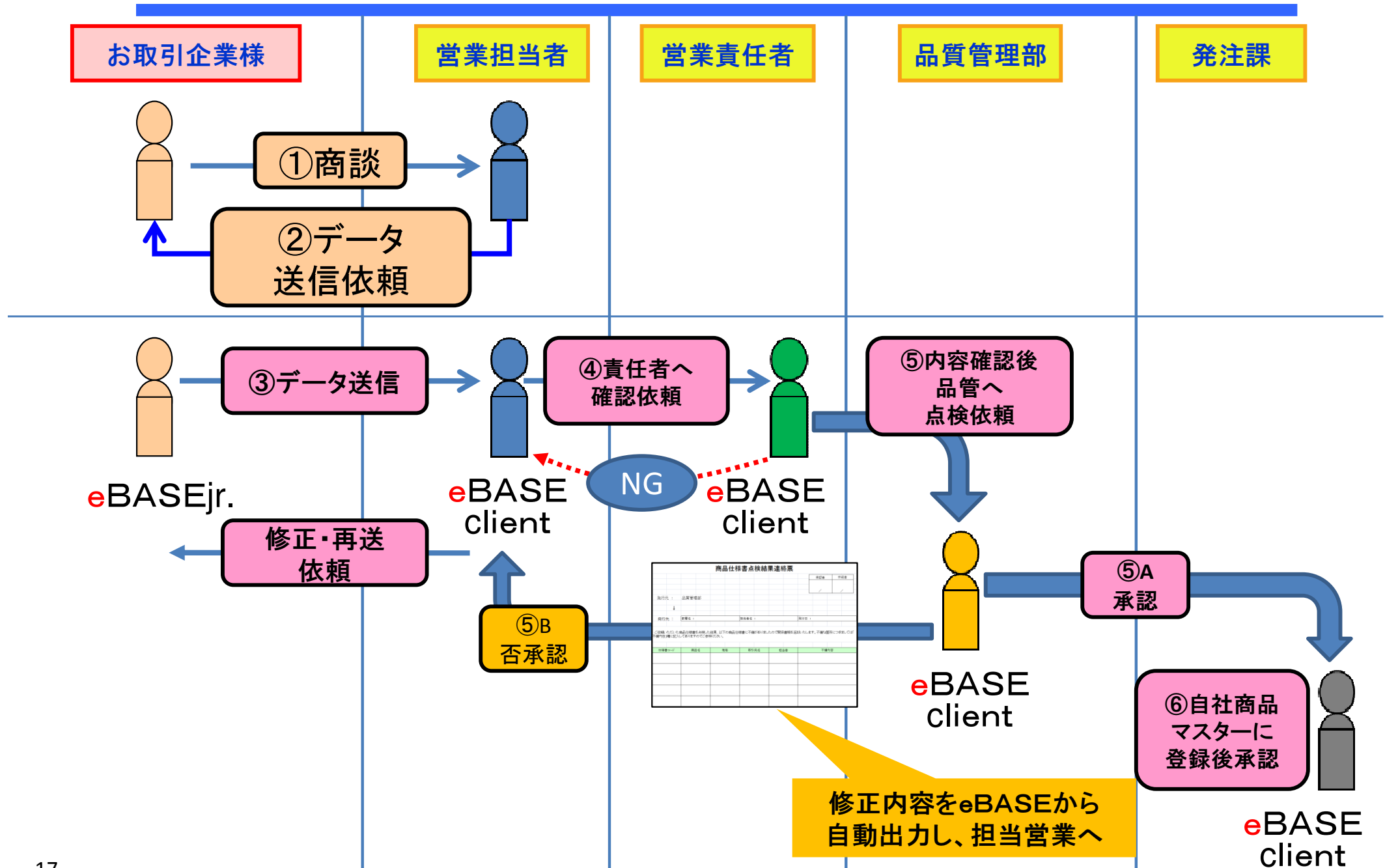
お取引企業様からのデータ送信時にシステムでチェックをかけているので、送信されてきたデータは、必須項目が埋められた状態であるため、**データの精度が高い。**



これまでは

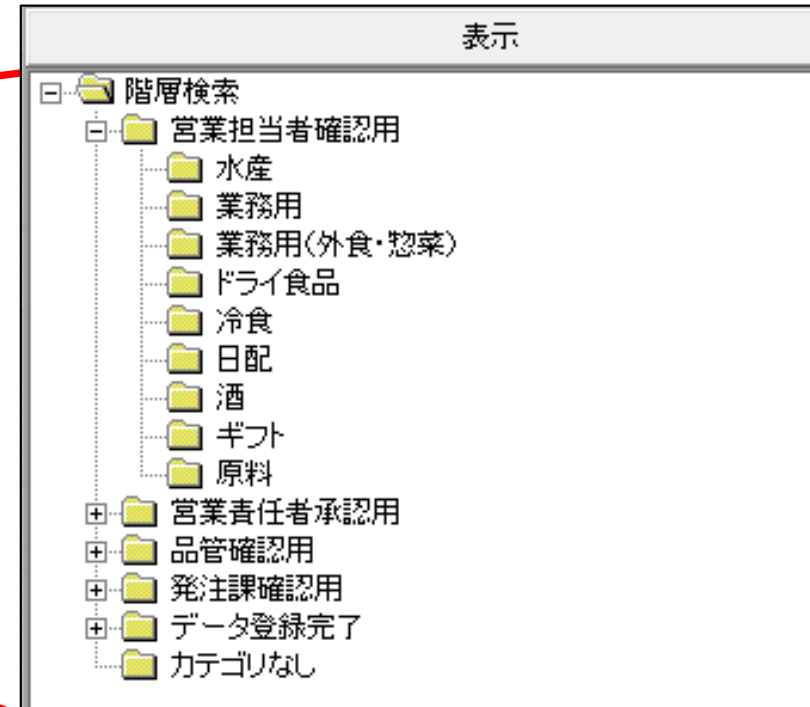
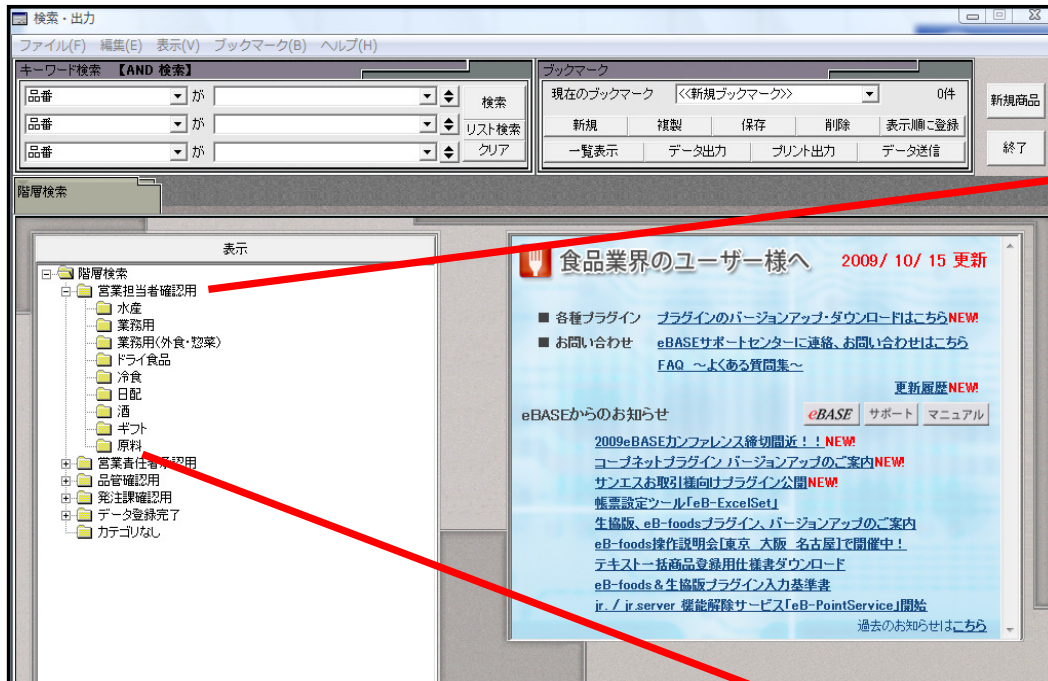
エクセルでデータ収集すると必要な個所に値が登録されていなかったり、セルのレイアウトを変更されたりして情報の品質が安定しなかった。

# 商品情報収集システムの詳細



# データ承認の仕組み①

## カテゴリ管理画面



eBASEのカテゴリ機能を利用して、仕様書情報を管理・運用している。予め、eBASEserver上に部門別カテゴリを設定し、データの承認状態に合わせてデータの登録されているカテゴリを自動的に移動させている。

お取引企業様からの初回データ送信時には、営業担当確認用フォルダの各部門のサブフォルダにデータが登録されるよう設計。

# データ承認の仕組み②

- 階層検索
  - 営業担当者確認用
  - 営業責任者承認用
  - 品管確認用
  - 発注課確認用
  - データ登録完了

- ①: お取引企業様からのデータ受信時はこのフォルダに保存される。
- ②: 「仕様書確認1」に署名をすることで、このフォルダに自動的に移動。
- ③: 「仕様書確認2」に署名をすることで、このフォルダに自動的に移動。
- ④: 「仕様書確認3」に署名することで、このフォルダに自動的に移動。
- ⑤: 「仕様書承認」に証明することで、このフォルダに自動的に移動。  
かつ、同じ仕様書コードでの上書き登録を防止。(データロック)。

2

基本情報	原材料リスト	包材表示	製造・品質	製造工程	添付書類	確認・承認	仕様書管理	仕様変更・確認	アドオン
仕様書確認1					仕様書承認				
部署名		加工食品部日記課		役職名		課長代理			
氏名		佐治弘志		氏名		宮本英昭			
内容に問題ないことを確認します		はい		内容に問題ないことを承認します		はい			
確認		確認日		2009/04/15		承認		承認日	
						2009/05/01		取消	

5

3

仕様書確認2	
部署名	日記課
役職名	
氏名	岡本 光司
内容に問題ないことを確認します	はい
確認	確認日
	2009/04/18
	取消

4

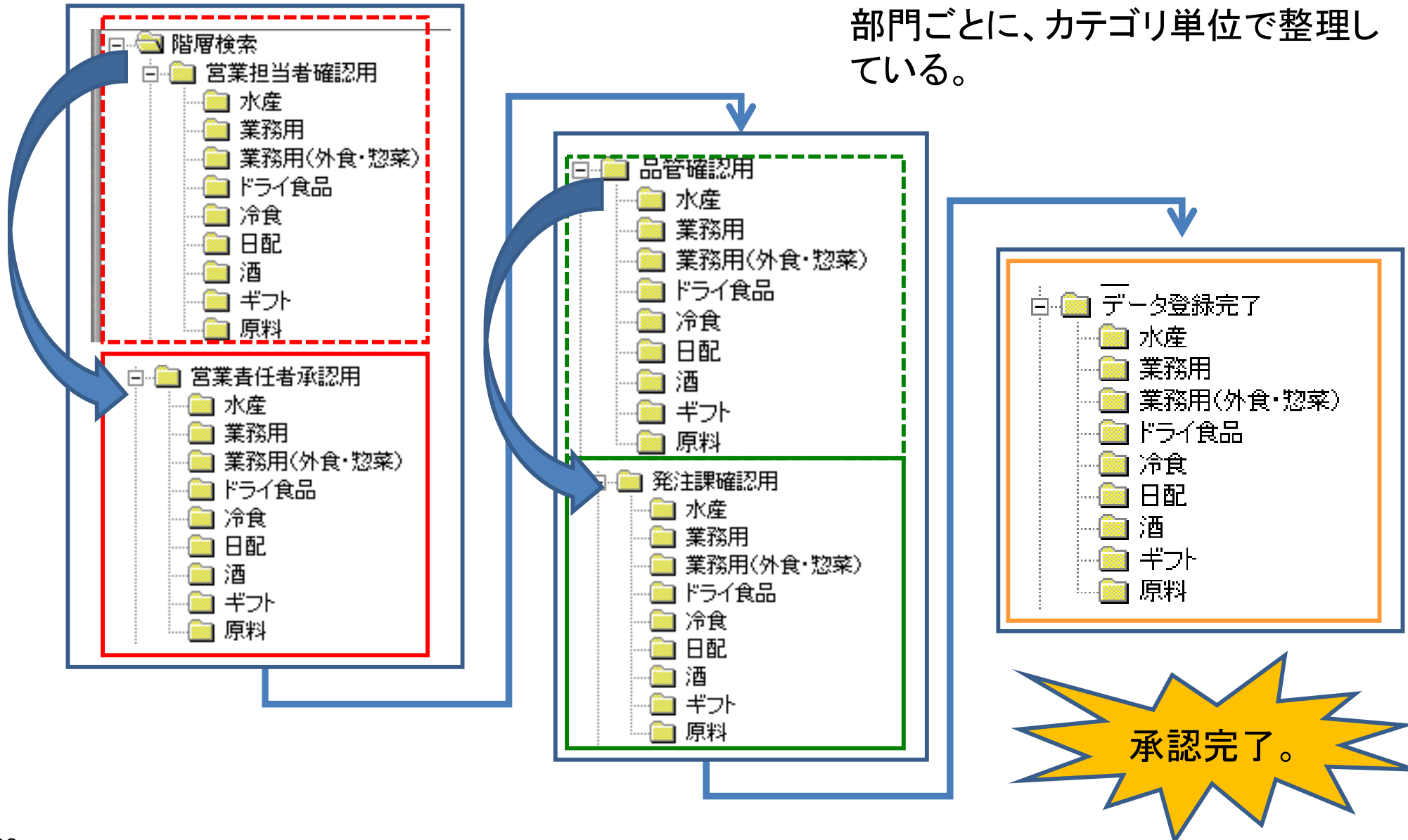
仕様書確認3	
部署名	品質管理部
役職名	
氏名	伊藤
内容に問題ないことを確認します	はい
確認	確認日
	2009/04/23
	取消

承認すると自動的にカテゴリが移動。仕様書データのステータス管理ができる。

マスタ取込	辞書マスタ取込	表示設定	データ取込	帳票出力
-------	---------	------	-------	------

# データ承認の仕組み③

eBASEに登録されているデータは部門ごとに、カテゴリ単位で整理している。



# 導入時期と現在の状況

## 事前説明会

- 2008年9月11、17日eBASE導入前、説明会実施。

## データ収集開始

- 2008年10月1日よりeBASEによるデータ収集を開始。

## eBASEjr.配布企業数

- 2009年9月末時点で、2,529社。

## データ収集点数

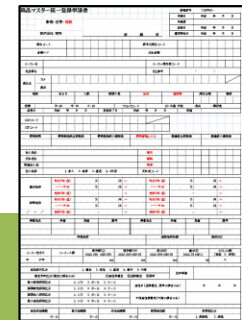
- 2009年9月末時点で10,266点。
  - 全取扱アイテムの約30%。

# 導入効果

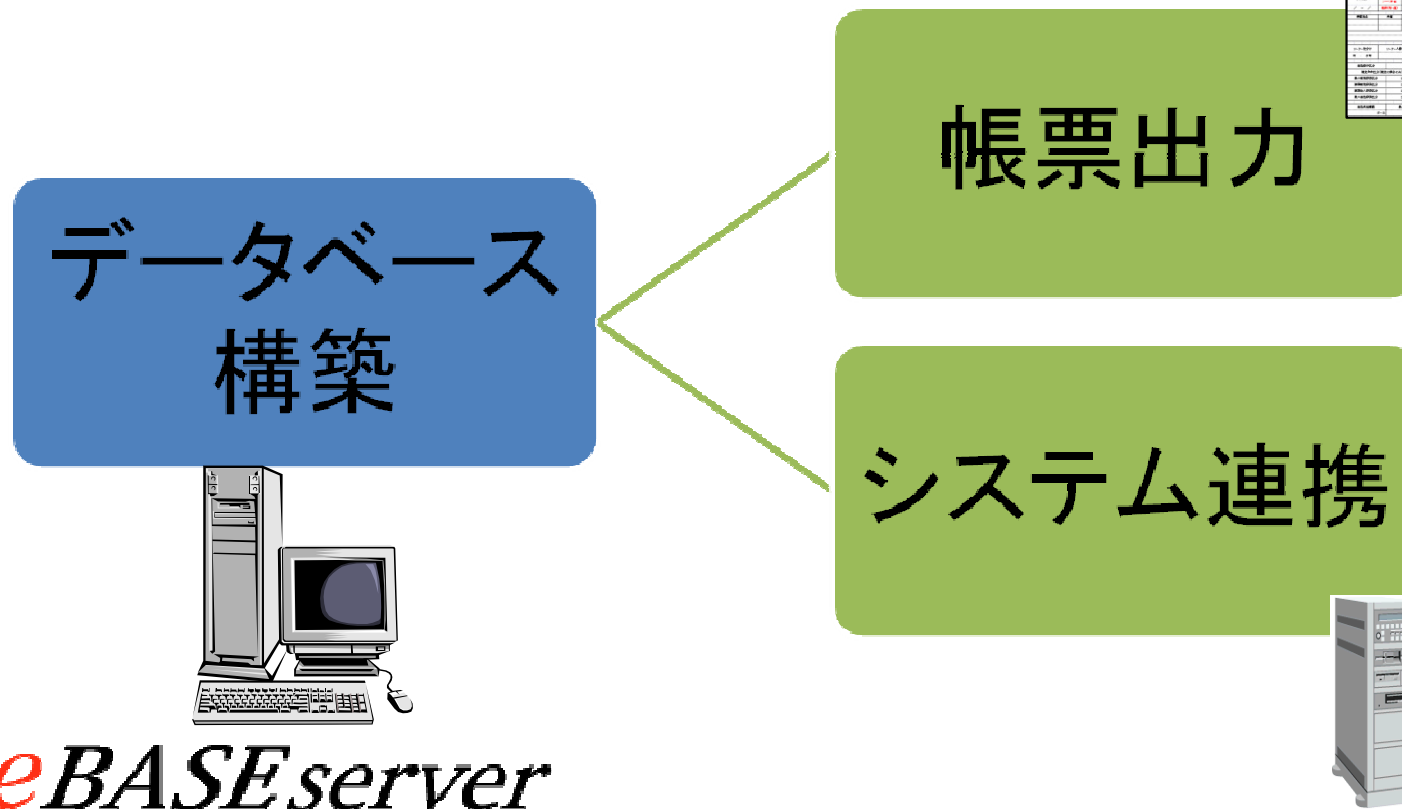
- 正確な商品情報をデータベース化することができた。
- 迅速な問い合わせ対応の実現。
  - eBASEの多彩な検索機能を利用し、必要な時に誰でもデータを検索することができるようになった。
  - eBASE形式でデータ提供を依頼してくる小売業様に対して、昭和のデータベースから情報を配信できるようになった。
- 品質管理部への問い合わせ回数の削減。
- 小売業様への付加価値の提供。
  - 商品の卸売、物流サービスに加え、安全・安心情報の提供を実現。
- 社内営業マンに対する、教育ツールとしての側面もあった。
  - 新入社員等は食の安全・安心情報の管理項目に対して理解度が低い場合もあり、また項目に対しての認識の違いなどもあったが、eBASEを用いることで、品質管理に必要な項目を把握することができ、不明な点は先輩社員や品質管理部に問い合わせることで、品質管理に必要な知識をつけるツールになっている。

# 今後の展開構想

- 小売業様のエクセル帳票への対応
- 他システムとの項目連携 etc



取引先情報		商品情報		金額情報	
品名	数量	単価	金額	消費税	合計
商品A	10	100	1000	100	1100
商品B	5	200	1000	100	1100
小計				200	2200
消費税				200	2400
合計					2600





# eBASE社への要望

- データの内容を簡単に比較できるようにしてほしい。
  - データ点数が増えてくると、同じ商品情報の新・旧のデータの内容を比較する業務がある。
  - お取引企業様にデータを再送依頼した際に再送されてきたデータと修正依頼前のデータを比較して、再送データが変更されているかを確認したい。
- 法改正に対する迅速な機能実装。
- バージョンアップ前のプレリリース情報の提供。
  - 事前にある程度、バージョンアップ内容を把握したい。
  - バージョンアップにより、運用上支障が出る可能性がある。
    - 現行の運用マニュアルを差し替えたりする場合、バージョンアップされてからでは遅い。

---

ご清聴ありがとうございました。